

リレー記事 No.100

見直そう！家庭の食品ロス！

農林水産省のよると、日本の食料自給率は現在39%（2014年度カロリーベース）で5年連続で同率だったそうです。一方、国内では年間約1700万トンが食品廃棄物として排出されています。その内、本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」が500万～800万トンと推計されています。

その、「食品ロス」の約半数の200～400万トンが家庭から出ています。

- *日本のコメ収穫量（2012年） 約850万トン
- *世界全体の食料援助量（2011年） 約400万トン

【家庭の食品ロスの内訳】 （一人1日あたりの量）



出典：農林水産省資料を基に消費者庁にて作成

- 過剰除去
食べられる部分まで過剰に除去して廃棄
（例えば、大根の皮の厚むき等）
- 直接廃棄
「消費期限切れ」や「賞味期限切れ」で、
食事として提供せずそのまま廃棄



「賞味期限」は、長期保存ができる食品に表示されています。「おいしく食べられる期限」でそれを過ぎてもすぐに食べれなくなるわけではありません。もちろん、賞味期限内に消費するのがベターですが、自分なりの許容範囲で判断しましょう。



「食品ロス」削減の工夫

- 当たり前だけど、「買いすぎない」「使いきる」「食べきる」。
- 「賞味期限」と「消費期限」との違いを理解する。
- 冷蔵庫や食品庫の整理を定期的にする。期限の確認。



特売の勢いで、つい買いすぎたり、買い置き調味料など使い損なって期限切れ5年物とかになっていたり…など、ありませんか？ 私は日頃の行いを改めて反省！！です。

資料参考：消費者庁ホームページ「食品ロス」

「しろくまプロジェクト」運営費用について



平成23年、エコけんは福岡県から仮認定NPO法人に仮認定されました。その過程の中で、NPO法人としての自分たちのあり方や今後の取り組みについて、いろいろ考えさせられました。その中で生まれたのが、「寄付で運営を目指す」しろくまプロジェクトです。

そもそもエコけんでは、発会して間もない頃から、学校への出前授業が活動の柱のひとつでした。それが連携教室として先生方や環境行政を巻き込んだスタイルとなり、三省(環境省 文科省 経産省)の認定事業へと進化していきました。これがしろくまプロジェクトの前身です。

この学校支援の活動は、急を要する地球規模の課題に対してESD(持続可能な開発のための教育)の推進と普及で臨むものです。しかし、エコけんの孤軍奮闘より、より多くの方の理解を得る方がずっとその課題解決に効果的なのは分かっていますが、その方法が見えませんでした。教育の専門機関である学校への支援には、それなりの専門性が求められるからです。よって、現場に多数のボランティアさんをお願いすることには無理があります。それに対して、仮認定NPO法人化の過程を通して、「一緒に臨む」というスタイルに「寄付」という方法があることに気づきました。

十数年来、学校支援事業は、必要経費の大半をエコけんからの持ち出しによって運営してきました。それをしろくまプロジェクトでは、“エコけんは学校と連携し学校に赴きます。どうぞ皆さんはその費用を寄付という形で応援してください。一緒に未来を担う子どもたちにしろくま教室をプレゼントしましょう”と呼びかけることにしたのです。

そして、プロジェクト開始から三年目の今年、しろくまプロジェクトを運営するのに必要な人件費を含む総経費を洗い出すことができました。このプロジェクトは立場の異なる方々との協働で成り立っています。年間スケジュールや企画の検討、学校への案内、打ち合わせ、教具・教材の開発・制作、教室実施、教室報告書の作成、寄付の呼びかけ、しろくまカフェの開催、年間報告書の作成などなど、やらねばならないことは山ほどあります。今の規模での実施に対しおよそ100万円が必要でした。



▲電力調査のようす

この運営に必要な費用に対し、来年度は寄付から25%、講師派遣制度から15%、助成金等から40%、エコけんから20%という分担割りで臨もうと思います。しろくまプロジェクトを持続可能な事業にしていくため、多くの皆さんに知っていただき、共感いただき、同志となっていただけよう努力して参ります。皆さん、どうぞしろくまプロジェクトと一緒に育ててください。宜しく申し上げます。

《S》

寄付でオークションを楽しくする「寄付かえっこ」にチャレンジ！

子ども達に寄付のしつみを体感してもらうべく新しく「寄付かえっこ」を実施します。



かえっこ 子ども達が、いらなくなったおもちゃを持ってくると「カエルポイント」がもらえます。会場内のお手伝いやポイントラリーなどでも「ポイント」をもらうことができます。その「ポイント」を使い、その場にあるおもちゃを持って帰ることができるおもちゃの交換会です。「すごいおもちゃ」は、オークション(競り)にかけられます。手に入れるには、たくさんポイントを持つ必要があります。



▲大人気のオークション

今回は、これに「寄付じゃんけん」を加えることにしました。場を楽しむための寄付を子ども達からもらうものです。自分の大切なカエルポイントを場に提供(寄付)します。そのカエルポイントが、定数にたまったら、じゃんけん大会を開催。これには、寄付をしていない人も参加できるしつみです。

カエルポイントは子ども達にとってとても大切なものなので、果たして寄付してくれる子どもがいるのか、期待と不安な気持ちがいっぱいです。寄付が受け入れられたらいいなあ、と思っています。

《ひらっち》

みつけた！ ~びん回収のお店~

古賀市舞の里にある「やまや」さんには、なんと雑びんの回収ボックスがあります。そのほか雑誌・新聞の回収ボックスもあるので、かさばる分別品を家にため込まずにすむので助かっています。

《S》

やまや：福岡県古賀市舞の里3-15-1

092-410-2899 10:00~22:00営業



未来を創ろうインタビュー

No.46 玄界環境組合事務局長

河北 吉昭 氏

今年玄界環境組合事務局長に就任された河北吉昭さんにお話を伺いました。12月のお忙しい中、快く取材を受けて頂きました。河北局長は古賀高等学校組合、北筑昇華苑組合事務局長も兼ねておられます。

気さくなお人柄で分別回収の入れ間違いを町内会の人に注意されたことを笑いながら話してくださいました。もちろんそれだけではなく、地域に貢献するボランティア活動のゴミ拾いや自警団としての夜間パトロールも続けておられ月に一回は金曜日の飲み会を断って帰られるとのことでした。「ゴミを捨てる人は捨てない!」との思いはエコけんと同じで、ごみ拾いボランティアを広げたい私たちとしては、とても嬉しくなりました。

竟成館高校へのエコロ環境講座出前授業も来年度はお願いしたいと言っていたが、実現したらいいなと張り切っていました。



Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 良好な住環境と美しい景観を作り守っていくこと。そのためには一人一人の意識や地域の協力が欠かせない。

Q. そのためにご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

A. ゴミ拾い。特に自分がタバコを吸うもので、タバコのポイ捨てが気になる。いつも携帯灰皿を持参している。地元古賀団地区の清掃活動や防犯パトロールにも所属し活動している。

未来を創る私の思い

ゴミ、タバコのポイ捨てをやめよう!
身近なところから環境美化に努めよう!

環境を守るのは自分たち! 身近な所から! この思いを再認識させて頂きました。ますますのご活躍をお祈りいたします。

《日女》

未来を創ろうインタビュー

No.47 ガールスカウト福岡県第31団 団委員長

梯 裕子 氏

古賀市を中心に福津市、新宮町で活動をされているガールスカウト福岡県第31団の梯裕子さんにお話を伺いました。第31団は、来年5月で団設立20周年を迎えられるそうです。異年齢の子ども達、そして周りでサポートする大人、そのどちらもが育つ環境を目指し、いろいろな活動をされています。エコけんとは今年の夏よりかえっこイベントやエコロの森の教室で大変お世話になっています。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか。

A. 未来を担う子ども達が健やかに育つために親以外の大人が子どもの育ちに関心をもったり、関わったりすること。親だけが子育てするのではなく、子どもの育ちを見守る大人がたくさんいて子どもが自然に育っていく環境が大切。

Q. そのためにご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

- ・ガールスカウト活動の中で、子ども達が主体的に活動する場を親以外の大人として提供できるように仲間とともに、がんばっています。
- ・大人が子どもの育ちに本当に大切なことを考える場を作ったり、そのような場に参加したりしています。



未来を創る私の思い

未来を担う子ども達です。

**大切な子ども達が主体的に、感性豊かに育つために
私たち大人の役割を考え一緒に行動を起こしましょう!**

インタビュー後にいただいたメモには、「自然は子どもの育ちに不可欠。ふるさとの文化はものごとの基準 大切に残さなければならないもの。そのようなまちで育てられる子どもたち」と書かれていました。子ども達を見守り、励ます眼差しは愛情にあふれておられます。

結婚して良かったことは、名字が「かけはし」になったこと、人と人を繋ぐことが私のお仕事です。と、ふんわりと笑ってお話される姿は、一緒にいて癒されました。

《Yっち》

しろくまカフェ

エコけんを知ってもらいたい！ということで恒例の「しろくまカフェ」を実施します。お子様も楽しめるよう、内容もくふうしました。ご家族、お友達、お誘いあわせの上、ご参加ください。

同封のハガキ、メール、電話、FAXでも参加受付しています。



2月28日 日
14:00~16:00

千鳥苑

古賀市千鳥3-3-1

Tel/092-943-2421

参加費 ¥500 (お茶代)



スケジュール

- しろくま教室実施報告と体験
認定NPO法人認定報告
- 講演
イネづくりを通じた小学校との協働
～エコけんと福教大のタッグで深める環境教育活動～
福岡教育大学技術教育講座教授 平尾健二先生
- 交流タイム



しろくまプロジェクト 未来を担う子ども達に体験型環境教育を！

近未来には、命を脅かすほどの環境の変化が予測されています。その緩和と適応力を身につけるため子ども達に体験型環境教育をプレゼントしませんか。

その運営費を1口1,000円から募っています。

《ゆうちょ銀行振込口座》

特定非営利活動法人 エコけん

01790-5-140481

※ゆうちょダイレクトからの振込が簡単です。

《他銀行からの振込》

【店名】 伊ナキウ 一七九 当座預金 140481



認定NPO法人

〒811-3101 福岡県古賀市天神1丁目19-21

[TEL/FAX] 092-944-6450

[mail] ecoken@npo-ecoken.sakura.ne.jp

[HP] <http://www.npo-ecoken.sakura.ne.jp/>



ecoken